

## 経済振興委員会報告資料

### アジア美術館の魅力向上の検討状況について

令和6年9月  
経済観光文化局

アジア美術館は、1999年にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館し、国内外の美術関係者からの評価は高く、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっている。しかしながら、その価値や魅力を広く市民に届け切れておらず、十分に活かしきれていない。

そのため、令和5年度より魅力向上の検討を行っており、令和6年2月に主な課題の整理と解決の方向性について報告を行ったところであり、今回、令和6年度に実施している検討状況について報告するもの。

## 1. アジア美術館の魅力向上の方向性

### (1) 取り組みの方向性

アジア美術館の基本理念の観点から現状分析を行い、達成できている点と主な課題の整理を行い、今後の取り組みの方向性について検討を行った。

#### アジア美術館の「基本理念」

- ・ アジアとの交流拠点、福岡
- ・ 世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館
- ・ 創造・発信する交流の場
- ・ 「まち」の中のライブな美術館

現状分析

達成できている点

- ・ 先駆的な取り組みを継続してきた結果、開館より25年を経て、確固たる地位を築いている
- ・ 優れた芸術性と独自性を持つアジアの近現代美術作品を収集・展示しており、国内外の美術関係者からの評価は高く、市民の貴重な財産となっている
- ・ アジア近現代美術の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を系統的に収集し、その数は約5,000点にのぼる

主な課題

- ・ 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない
- ・ 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない
- ・ 設備の老朽化により機能が低下している
- ・ 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

基本理念に基づいて、先駆的に取り組んできた美術館活動を継続するとともに、直面するソフト・ハード両面の課題解決を図り、これまでの活動や蓄積にさらに磨きをかけて魅力向上を図る

### (2) 課題解決の方向性

#### ① コレクション展の充実・展示機能の拡充

##### 市民がアジア美術に触れる機会を増加させ、価値や魅力を伝える

- ・ アジア美術に関心が無い人でも興味が持てる、コレクション展のテーマの設定や空間デザインの工夫などを行い、魅力的な展示をつくる
- ・ アジア美術の理解・認知の向上のため、代表的な作品をアジア美術館の「顔」として周知を図り、市民に身近に感じてもらう

##### コレクションを十分に活かした展示ができ、気軽に立ち寄り鑑賞するための展示機能の拡充

- ・ 大型作品をダイナミックに展示することが可能な容積および壁面長の確保や、メディアアートなどが展示可能な機器や設備の導入
- ・ 最新の現代美術作品の収集によりコレクションの充実を図り、コレクションを中心とした多様な企画展示に取り組む

### <現在の取り組み状況>

コレクション展の魅力を広く市民に伝えることを目的とし、開館25周年記念コレクション展において、展示の工夫やSNSなど活用した広報強化等を行っている。



現在の展示状況

## ② 収蔵機能の拡充

### コレクションを適切に管理・活用するための収蔵機能の拡充

- 作品数、種類に合わせた、適切な保存管理が可能で十分な余裕がある収蔵庫
- 作品研究室と一体化した収蔵機能の拡充

## ③ その他 魅力向上に資する機能の拡充

### 魅力向上に必要な集客・賑わい機能の拡充

- ナイトコンテンツやユニークメニューとしての活用など、集客力を高め賑わいを創出できる新たな仕掛け
- 周囲の目を引く美術館のアイコンとなる大型作品の設置
- アジア美術が街中で様々な形でプログラムとして展開され、その中心にアジア美術館があるような、街中とつながれる仕組み

## (3) 機能拡充の方向性

### 機能拡充の基本的な考え方

- ① **展示機能** | コレクション展示のソフト・ハード面での改善をおこない、多様な人々がアジア美術に触れるためには、気軽に立ち寄れ、集客が見込める場所での展開が望ましい
- ② **収蔵機能** | 作品の保存・管理には、空調システムや高いセキュリティを備えた設備が必要となるため、既にこれらの機能を備えた現館の機能を活用しながら、不足する面積と設備を拡充し、収蔵機能と調査研究機能を一体化することが望ましい
- ③ **集客・賑わい機能** | 多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくるため、展示機能と一体的に展開することが望ましい

機能拡充の基本的な考え方を踏まえ、魅力向上を図るためには、現在の博多リバレイン7・8階の限られたスペースの再編成では対応が困難であることに加え、市民や国内外からの観光客が集いやすい場所で新たな拡充スペースが必要となる。

このため、現館との機能分担により、それぞれの場所の特性を活かした施設拡充について検討する。

### <主な機能分担のイメージ>

#### 【現アジア美術館(7・8階)】

- ★**収蔵機能**
- ★**貸館機能**  
市民や企業の発表(展示)の場
- ★**調査研究機能**  
アーカイブ(これまでに収集・蓄積してきた作家資料、所蔵品資料、写真資料、映像資料等)、ライブラリー、作品研究室

#### 【拡充スペース】

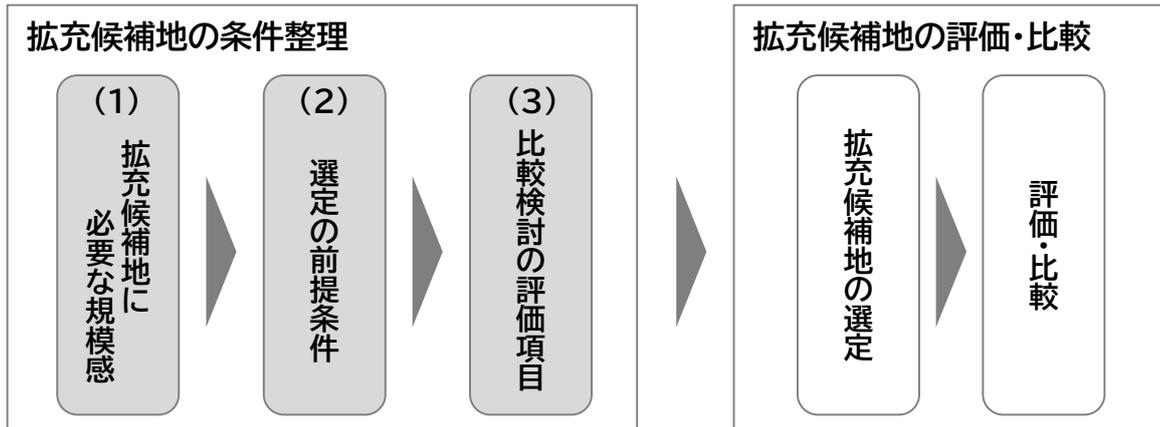
- ★**展示機能**  
コレクションを中心とした多様な企画展示  
魅力的でダイナミックな展示
- ★**集客・賑わい機能**  
多様な来館動機の創出  
アジア美術との出会いの機会の創出

★拡充する機能 / ■既存の機能

次に、まずは機能拡充に必要なスペースの候補地について検討を行う

## 2. 拡充候補地選定の進め方

拡充候補地選定に向けては、以下の手順にて条件を整理し、拡充候補地の評価・比較を行っていく。



## 3. 拡充候補地の条件整理

### (1) 拡充候補地に必要な規模感

拡充候補地を検討するために、必要な規模感を想定する。「主な機能分担のイメージ」に基づき、拡充候補地に設けたい、「展示機能」及び「集客・賑わい機能」に必要なスペース、並びにそれに伴う「共用・管理スペース」を既存の国内美術館の事例等を参考に以下のとおり設定する（一つのモデルとして想定を行ったものであり、詳細な施設規模については今後検討を行う）

| 項目                             | 内容   | 面積(m <sup>2</sup> ) |
|--------------------------------|--|---------------------|
| ★展示機能<br>〔コレクションを中心とした多様な企画展示〕 | 近年整備された公立美術館の事例を参考とした展示室の面積                                | 2,000 ~ 2,500       |
| ★集客・賑わい機能                      | 近年整備された公立美術館の事例を参考とした飲食や物販、交流・イベントスペース等の面積（象徴的なエントランス等も含む） | 1,000 ~ 2,000       |

上記に加え、美術館として必要な共用・管理スペース約4,500m<sup>2</sup>を加え、以下のとおり施設規模感を想定

**床面積規模の想定 約7,500~9,000m<sup>2</sup>程度**  
**展示室の高さの想定 約4~5m**

### (2) 選定の前提条件

#### ■ 現在の博多リバレイン内での拡充について

前述のアジア美術館の魅力向上の方向性を踏まえて、まずは現在の建物での配置について検討を行った

＜結果＞ リバレイン低層階は、商業施設、複合施設という性格上、フロア中央部のエスカレーターや屋内通路等の共用部が多い。商業施設、複合施設としての導線を確保しながら、美術館として必要なロビーや作品搬出入通路などの共用・管理スペースを確保したうえで、想定するまとまった規模の整形な展示室を確保することは極めて困難

博多リバレイン内での拡充の検討は極めて困難であるため、他の候補地での検討を行う

## ■ 拡充候補地選定の前提条件

### ① 候補地の状態について

計画のしやすさや、土地取得の可能性の高さといった、実現可能性の観点から、公有地を優先とし、**空地や活用の可能性が見込める予定の場所等であること**

### ② 候補地の規模について

左記で想定した規模を確保可能な土地とする

→ **床面積規模の想定 約7,500~9,000㎡程度**

→ **展示室の高さの想定 約4~5m**

### ③ 候補地が位置するエリアについて

下記の視点を元に望まれるエリアを検討する

- 基本理念を体現できる** –「まち」の中のライブな(生き活きとした)美術館、都心型美術館–
- ・都心部に位置する場所、周辺施設(商業施設、オフィスなど)が充実している場所
  - ・時代を先取りする、最先端の文化発信にふさわしい場所

<福岡アジア美術館の基本理念(抜粋)>

#### **「まち」の中のライブな美術館**

福岡アジア美術館は、福岡と博多の「まち」のエネルギーがうずまく都心にあります。この「まち」に生きる人々が、アジア美術を通してアジアの「いま」へ最短距離でアクセスできる**都心型の美術館**です。また、アジアの美術作家たちも、「まち」特有の場所や表現方法を活かして、「まち」を生きる人々へとアプローチしていきます

#### ○**気軽に立ち寄れ、より多くの、多様な集客が見込める**

- ・交通アクセスが良く、人流が多い場所
- ・市民を中心とした、オフィスワーカーや買い物客、国内外からの観光客など幅広い目的を持った人々が集まる場所

#### ○**美術館の特徴が最大限発揮できる**

- ・美術館が「福岡の顔」として存在感を示す場所
- ・周辺施設と連携しながら、アジアとの交流拠点かつアート、文化観光の核として展開できる場所

→ **都心部に位置する土地であること**

## (3) 比較検討の評価項目

今後は、前述の前提条件を踏まえ、さらにアクセスや都市機能の集積、土地の面積などの観点で選定に向けた条件を絞り込みながら拡充候補地を選定し、以下に示す、土地の状況、利便性、経済性等の観点から評価項目を設定し、拡充候補地の評価・比較を行う。

<拡充候補地の比較検討の評価項目>

- 土地の状況(土地の規制状況、整備の実現性)
- 美術館活動(美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上)
- 利便性(広域からのアクセス、交通アクセス)
- 集客性(歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数)
- 安全性(安全安心)
- 経済性(土地取得費、建設工事費)

## 4. 今後の進め方

今後、拡充候補地の選定、評価・比較を行うとともに、現アジア美術館(7・8階)との機能分担や機能強化も含め、検討を進めていく。また、引き続き、展示の工夫やSNSなどを活用した広報強化等を行い、コレクション展の充実を図り、アジア美術館の魅力を広く市民に伝えていく。